

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2292300189		
法人名	医療法財団百葉の会		
事業所名	グループホーム 花ごろも		
所在地	静岡県富士市岩本232-2		
自己評価作成日	平成29年5月3日	評価結果市町村受理日	平成29年6月6日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaijokensaku.mhlw.go.jp/22/index.php?action_kouhyou_detail_2016_022_kani=true&JigyosyoCd=2292300189-006&PrefCd=22&VersionCd=022
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社第三者評価機構 静岡評価調査室		
所在地	静岡市葵区材木町8番地1 柴山ビル1F-A		
訪問調査日	平成29年5月15日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

・計画作成担当者を介護職が行っている。日頃、介護現場でお客様と関わっているの、現場に即したケアプランが作成されている。また、サービス担当者会議では、日頃お客様が発言している言葉をご家族伝え、ご家族からご自宅で暮らされていた頃の様子を聞き出すようにしている。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

和風料亭さながらの玄関に立つと、中庭越しに目が合った職員の会釈に出迎えられ、威風ある設えを超えた人的サービスが培われていることが覗えます。前回課題とした「レクリエーションを家族と〜」は成果に至っていませんが、「家族とのコミュニケーションの充実」を常に意識しており、例えば本年は職員紹介を写真付で届けています。また現場経験のある職員が1年程前から介護計画書の作成担当となったことが功奏し、サービス担当者会議では具体的エピソードが増えてアセスメントの掘り下げが進み、マクドナルドや花見といった個別外出が豊富となって利用者の笑顔に結ばれた例をはじめ、向上への姿勢を持ち続けている事業所です。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当するものに○印		項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者や職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らさせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	朝礼にて、理念、こやまケア行動指針を唱和しています。またこやまケア委員会で、行動方針に基づいたケアが実施できているか、振り返りや浸透できるよう取り組みを行っています。	こやまケアの条項のなかからピックアップして毎月の目標を定めるとともに、振り返りアンケートを毎回とることは職員の提案から取り組みが始まり、勤務年数が未だ浅い職員にとっては習熟の機会となっています。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域のお祭りや文化祭等の地域行事へ参加し、交流の場としています。また、より地域に知って頂くため、季刊誌を年四回発行しました。施設での行事にもご参加頂ける様、回覧板にて案内を回しています。	滝戸地区の80部ある回覧には事業所の「花ごろも通信」を挟み込むことも叶い、また祭りでは子ども神輿が駐車場を休憩処としつつ演舞披露くださるほか、事業所の行事にも子どもたちの笑顔がみられます。	年間行事が定まり、事業所行事に地域からの参加もありますので、今後は参加者数のカウントをおこない、さらなる集客向上を期待します。
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	運営推進会議では富士市の介護保険課の職員の方や、ご家族様に参加頂き、花ごろもの取り組みを説明している。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2カ月に1回運営推進会議を開催しています。ご家族様、地域包括支援センターの方々、民生委員の方々、現場の職員が参加し、月の行事や話し合い、サービス向上としています。	児童クラブからは「流しソーメンにはグミが喜ばれるよ」と有意義な助言も挙がり、併設事業所と合同で定期開催できています。家族には案内と議事録を必ず送付していますが、出席につながっていません。	ゲストスピーカーに招いたり、梅ジュースと一緒に作る等家族参加が増える工夫があるよう期待します。また当事業所のことのみ話し合う時間帯があるとなお良いと思います。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	運営推進会議を行っています。地域包括支援センター主催の地域ケア会議に管理者やケアマネが参加しています。	併設の小規模多機能事業所では国、県、市が揃って立ち合う実施指導を昨年は経験しており、さらに介護相談員から「ここはもう卒業させてもらいます」との辞意があったことから事業所の評価の高さが伝わります。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束0を掲げています。施設、法人内でも研修・勉強会に参加し、身体拘束のないケアの勉強会を行っています。玄関の施錠については外部からの防犯対策として夜間帯は施錠しています。	離設事故防止のために玄関にセンサーが備わっていますが、音量の快・不快についても部署会議に挙がっていて、工夫や是正の態勢ももっています。訪問看護師に周辺症状の相談をしたり、症状の変化にはドライブに連れ出したりして「事前の回避」に留意しています。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待の勉強会を開催しています。また、ケアについて疑問を感じた場合には、全体会議など職員全体で考えることのできる機会を作っています。言葉遣いに関しては、課題としたいものです。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	制度についての理解が不十分なため、今年度より勉強会を開催する事になりました。6月、10月に実施予定です。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約また改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時にはご利用者様、ご家族様に説明を行っています。 サービス利用後も加算の変更などある際には、電話連絡や書類の郵送を行い、細かく伝えています。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	玄関にご意見箱を設置しています。 また、お客様アンケートにて、ご家族様の意見を頂き、職員全体で対応を考えるようにしています。 サービス担当者会議の際にも、ご家族様に話して頂く時間を作り、ケアに反映されるようにしています。	少ない人でも月1回以上の面会があり、週1回オムツを届けがてら立ち寄ってくださる家族もいます。運営推進会議や行事への参加は活発でないものの、意向把握による是正が丁寧におこなわれています。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	月に1回、運営会議、全体会議を開催しています。会議の内容は、運営、経営、職員の進捗状況などで、どの職員も意見を言える場としています。また、議題に沿ったアンケートや意見の収集も行っています。	若い職員たちであっても協議では高齢者の立場になっての発言となり、「就業時間内での会議実施を」との適正運営についても職員から進言で本年の事業計画にも組み込まれ、残業時間も目に見えて減っています。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	管理者、主任が定期的に職員面談を実施しています。目標管理シートの確認を行うほかに、不安に思っている事や日々の業務について感じる事など、どんな事でも話せる場としています。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	職員の成長過程に沿った研修へ参加するように研修計画を作成しています。また、新人にはプリセプター制度を採り入れ、個々の成長や経験に沿って教育を行っています。 定期的な事業所内異動も実施しており、全てのお客様へのケアが出来る様、努めています。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	施設間評価や職員交換研修、他事業所と交流する機会のある研修に参加することで自施設の振り返りや、学びを得る機会を作り、事業所の発展としています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居前のカンファレンスで、本人様のお気持ちを、職員間で共有しています。また、本人様と同じ目線・立場に立って気持ちを考える事を大事にしています。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	施設見学時やご利用申込み時には、ご家族様のお話を丁寧にお聴きし、不安や悩みについてお答えしています。また、面会時や電話等で、小まめに本人様の様子を伝えています。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人様の出来る事・出来ない事の把握、また、行いたい事の把握をし、サービス提供しています。また、訪問看護や往診サービス、訪問マッサージ等、他サービスとの連携も図りながら対応しております。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	手伝って頂けることは、手伝って頂き、今まで行ってきた家事や生活習慣を大事にしております。また、GH内、ご利用者様同士の相性も考え、座席の位置やお話の間に入れて頂く等、生活しやすいよう配慮しています。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	面会時には、居室にご案内したり、リビングソファーと一緒に座って頂いたり、家族だけの時間を作れる様にしています。同時に、職員からの近況報告や、ご家族様からの昔のお話等、会話する時間を作ることを心がけています。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	年賀状や暑中見舞い等、ご本人様と、誰に出すのか相談しながら送らせて頂いております。ご本人様に、メッセージや名前を書いて頂ける様、声掛け・支援しております。	「手紙だしたい人います？」と職員が問いかけて、葉書きに近況をしたためています。それに因って会いに来てくださった職場の後輩が「此処にいることが知れてよかった」と喜んでくださったという嬉しい話もあります。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者が同士の関わり合い、支え合えるような支援に努めている	GHのお客様同士、相性がありますので、席の配置やお話の内容、表情の変化等を気にして関わっています。他者とのコミュニケーションが難しいお客様には、職員が介しお話ができるようにしております。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	私事情、入院や死去等で契約が終了したとしても、いつでも相談可能な環境作りを行っています。ご家族様にもそのことを伝えており、必要に応じて、相談や支援も行っていきます。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	その人らしく生活できるよう、起床時間や日中の過ごす場所等、出来るだけ、ご本人様の希望に沿えるよう努めております。また、表情や様子を見て、ご本人様の立場に立ち、声掛けさせて頂いております。	「若い頃は～」 「元気だった時は～」と、主にサービス担当者会議の場で家族から聞きだし、3食以外の補食に反映させていて、寝酒を再開した人や漬物が冷蔵庫に常備されるようになった人もいます。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	利用前には、カンファレンスシートを職員間で回覧しています。また、利用前の職員会議で、CMから介護職員・看護職員に、ご本人様の紹介があります。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日中の過ごし方については、出来るだけ、ご本人様の希望に沿えるようにしております。心身状態や、ADLについては、朝・夕の申し送りと業務日誌、ホワイトボード等を活用しながら、情報共有に努めています。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	サービス担当者会議には、必ず介護職員が出席し、自施設での過ごし方と照らし合わせながら、ケアについて決定しています。また、お客様によっては、看護師が出席することもあります。	1年程前から現場経験のある職員が介護計画書を作成するようになって、サービス担当者会議の内容に具体的エピソードが入り、またマクドナルドや花見といった個別外出が増えて充実しています。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	経過記録は、ケアに関わった職員が記入したり、担当に口頭で伝えて記入してもらおう等、細かい記録になるよう努めています。ケアの実践や結果については、お話し期間を設け、後日、カンファレンスで話し合っ決定しています。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	ご本人様の心身状況に合わせて、マッサージやリハビリ、お散歩、お昼寝等、個別の対応を行っています。また、訪問マッサージや訪問理容等、外部サービスとの連携も図っています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域の児童クラブの慰問や中学生にボランティアに来てもらう等、交流を図っています。また、地域の防災訓練やお祭り等にも参加しています。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	ご利用時に、納得を頂いたうえで、かかりつけ医について説明をさせて頂いております。初回往診時には、ご家族様にも同席して頂き、ご家族様とかかりつけ医が、顔を合わせて話ができる場を提供しております。	全員が月1回訪問診療のある協力医に変更しており、診療には配薬の薬剤師も立ち合っています。家族には初回診療には同席してもらうようお願いし、医療情報を都度電話で報告して連携を図っています。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	看護職員にも、朝の申し送りに参加して頂き、お客様の情報を介護職員と一緒に聞いてもらっています。また、日々の様子や外傷についてはその場で確認して頂き、指示をもらっています。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	お客様に変わった症状が出たとき等につきましては、看護職員が、小まめにかかりつけ医との連携を図っています。また、入院になった際には、CMや病院関係者と連携をとり、帰設後の対応についても整えています。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	緊急時や、サービス担当者会議等で、ご家族様のその時のお気持ちを伺っております。ご家族様の意見を聞きながら、事業所として出来ることを明確にし、出来る限り希望に沿えるよう努めています。	これまでの終末期では家族の協力が得られることもあり、職員の達成感も「家族との最期の時間があってよかった」との気持ちに結ばれ、管理者も「(夜半でも)いつでも気にせず電話してきてください」と職員の安心感を醸成しています。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	緊急時の対応についてのマニュアルを使用し、勉強会を行っています。マニュアルは職員が見やすい場所に置き、緊急時にすぐに対応できるようにしています。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	災害時マニュアルを作成しています。また、月に一度の定期的防災訓練や夜間想定、避難経路を変える等、様々な方法や想定で行っています。地域の方に参加して頂く避難訓練につきましては、現在、検討中です。	毎月避難訓練があることから職員だけでなく利用者も常態化しつつあります。また夜間想定では職員が利用者役となり、「毛布にくるんで～」といった体験もあり、備蓄はローリングストックを含めれば充足しています。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	ご本人様の立場に立ち、考え、声かけを行うように心掛けています。不安な様子や落ち着かれない様子がある時には、寄り添い、お話を聞くようにしています。また、衣類の更衣時や排泄介助時には、必ず扉をしめ、プライバシーに配慮しています。	こやまケアが浸透し、穏やかな暮らしがあることがひと目で伝わります。「～ちゃん」づけは原則禁止ですが、咄嗟に「おばあちゃん」呼びかけてしまう場面までは言及せず、本人との関係性も重んじています。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	ゆっくりとお話ができる様、目線の高さや、言葉の早さに注意し、開かれた会話ができる様努めています。ご本人様より、ご希望の出たことは、職員で周知し、記録に残し、叶えていくように努めていますが、出来ていないことが多いため、今後の課題にしていきます。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	起床時間や就寝時間、お食事の時間等、お客様のご要望、状態に合わせ調整しています。なるべく、以前と同じ生活を送って頂けるよう、ご家族様へ聞いたり、ご本人様の訴えを聞き、支援を行っています。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	女性のご利用者様では、髪を結ったり、ピンでとめる支援も行います。お洋服も、好きな色・柄の物を着て頂けるように声かけ、支援を行っています。また、近隣の美容院が事業所を来所して下さり、理髪されています。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	栄養士がお客様の意見の中から、献立作成したり、季節や行事にあったお食事の提供をしています。また、食事作りや、食器の片付けも職員と一緒にしています。	献立一品いっぴんを職員が吟味していることは食品保管棚の5Sでも確認でき、見た目・栄養バランス・季節感も秀逸です。特に味については一皿ずつ変化が凝らされ、職員との会話もあって食べるゆしみのある食卓です。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	栄養士が栄養バランスを考え、献立を作成しています。また、適宜水分補給をして頂けるように、ジュースやお茶などを用意しています。毎日の食事量も、バイタル版に記載し管理しています。食事形態も、お一人お一人に合った形態にし、召し上がって頂いております。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後には、口腔ケアを行って頂いています。ご本人様で難しい場合は、職員で行ったり、ガーゼで口腔内の拭き取りを行って頂いています。入れ歯のお客様は、一日一回、入れ歯は洗浄剤につけ、清潔を保っています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	トイレでの排泄を基本とし、無理のないよう支援しています。個々の排泄パターンを考え、誘導を行っています。また、お客様によっては、布パンツを使用し、排泄チェック表を活用して、排泄パターンを検討しています	「案内が～」 「パット交換の支援が～」 と介助が必要な人が大半ですが、重篤な状態の人ではなくパターンを把握しての支援が叶っています。便秘には寒天ゼリーなども用意していますが、主には薬を使っています。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	自然排便を促すために、体操、水分摂取に配慮しています。また、お腹のマッサージも行ない、排便を促しています。お客様によってはヤクルトや牛乳を飲まれています。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	お客様のご希望に沿って、入浴して頂けるように声をかけてしています。また、個々にあったお湯の温度で、ゆっくりと入って頂けるよう、支援しています。お客様によっては体力、状態によって入浴の頻度を控えさせて頂いています	以前は檜でしたが、経年劣化による交換時に使い勝手のよい一般浴槽に替えています。掃除がしやすくカビへの心配も減ったほか、香りのよい市販浴剤を使用できるようになったとの効用も生まれています。	浴槽から見える坪庭には、眺めを楽しんだり話材となるようなものが置かれると、なお良いと思います。
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	昼夜逆転のリズムを作らないよう、日中での離床時間の配慮、体操等を行なっています。夜間も、リビングの電気は最小限にし、安眠への支援も行なっています。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	服薬マニュアルを基本に行ない、個々に合った内服介助方法を看護師が用紙にまとめ、統一した支援を行なっています。服薬の変更については、申し送りノートやホワイトボード特記事項にて、情報共有を行なっています。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	お客様の楽しめる個別企画や全体企画、レクリエーションを考え、実施しています。また、仲の良いお客様同士での会話も楽しめるよう、お席の配慮を行なっています。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	お客様お一人お一人、ご希望に沿った個別外出企画やお散歩、ドライブ等の支援を行なっています。職員と一緒に買い物にも行っています。	年間の行事計画と担当者が予め決められ、福祉展や紅葉見学、地域の夏祭りの他、少し遠くは清水まで足を延ばして、ミニドライブも細目におこなっています。また介護計画書の作成担当者が交替して後個別外出も増えています。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	お客様に合わせ、お財布、お金の管理を行っています。お買い物の際には担当職員だけではなく、なるべくご本人様と一緒にけるように配慮し、支援しています。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	今現在では、電話をご希望されているお客様はおりませんが、ご希望があれば、その都度支援していきます。暑中お見舞いや、年賀状はご自身で書いて頂けるよう、支援しています。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	清潔保持として、毎日の掃除に努め、感染予防として、一日二回(朝・夕)にハイター消毒を行っています。また、暖房や冷房を使い、室温の調整も行なっています。ゆず湯やお茶風呂など、季節に楽しめる、お風呂を提供しています。	古式ゆかしい日本間の欄間や和紙のランプシェード、壁掛け時計までが木目という調度品に囲まれ、日に2度の清掃では至る面において清潔が保たれています。エアコンの風よけが備わり、しゃくやくなど季節の花も配され快適さが検討されていることが覗えます。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ご本人様のご希望に合わせ、ソファにて過ごされたり、お部屋にて休まれたり、思い思いの時間を過ごしていただいています。また、お客様同士の関係性づくりの為、職員が間に入り、支援しています。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	ご利用様が居心地よく生活できる様、居室整備や清掃は毎日行っています。ご本人様の作品や写真等を飾っております。また入居時に、慣れ親しんだものをお持ち頂いています。	嫁入り道具と思われる遣い慣れた重厚な筆笥の上には、職員の心遣いが感じられるレクリエーション作品や小物が並び、本人はわからなくなってもカレンダーを置いて「暮らしの満ちる部屋」が造られています。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	施設内の危険個所を把握し、安全に過ごしていただけるよう配慮しています。手すりが少ない為、職員がお客様の手すりとなり、支援しています。		